

## 部活動などの活躍

### 《陸上競技部》

第70回東京都中学校地域別陸上競技大会

女子東部1年800m **第2位**

〇〇〇〇さん(1-3)

### 《ソフトテニス部》

荒川区中学校ソフトテニス夏季大会

女子団体戦 **第3位**

3年女子ソフトテニス部



女子ソフトテニス部の皆さん



3年生によるブックトーク



2年生によるブックトーク

### 月に一度、図書委員会によるブックトークを開催中！

毎月一度月曜日に行われる生徒会朝礼では、**図書委員会**が**お薦めする本を紹介する「ブックトーク」**を開催しています。5月は、3年生が日本語の理解に合わせて、「りんごかもしれない、It might be an apple」「5分後に感動のラスト」「4TEEN」「人間失格」の4冊を寸劇を交えて楽しく紹介しました。6月は、2年生が梅雨の季節を味わう読書をテーマに、「5分後に意外な結末」「雨ふる本屋」「浜村渚の計算ノート」「火垂るの墓」の4冊を紹介。雨の日は落ち着いて本を読もうと呼びかけました。

紹介した本はすべて図書館にあります。朝読書や夏休みなどの機会に読んでみましょう。



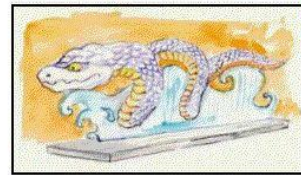
## 南千住マイスターのコーナー

「片目の大鱈鯉」、「千住大橋の大蛇」の御輿に並んで、玄関ホールに鎮座しているのは「牧の野の大蛇」です。今号では、この大蛇にまつわる「南千住の妖怪伝説」を紹介します。

その昔、千住宿にはたくさんのお旅籠がありました。その一軒に「お牧さん」というとても器量の良い女中がいました。ある日、川越夜船の船頭がこの旅籠に泊まりました。船頭はお牧さんの詭りをきいて自分と同郷だとわかり話はずみしました。何度か船頭が訪ねるたびにお牧さんもお話の話を抱くようになり、二人は結婚を誓います。

しかし、お牧さんは田舎の実家の借金を返すためにこの旅籠に売られてきた身でした。お牧さんがこの旅籠を出るには、その借金を返さねばなりません。船頭にはそのお金はありませんでした。そこで二人は駆け落ちすることにします。待ち合わせは人気の少ない「牧の野」(現在の町屋から南千住の間のあたり)と決めました。人目を避けるように牧の野へ行き、葦の葉で身を隠しながら恋しい人の来るのを待ち続けました。が、いくら待っても約束を交わした人は、牧の野には姿を見せませんでした。このままでは旅籠へは帰れませんし、かといって故郷へも帰ることはできません。思いあまたのお牧さんは、夢遊病者のように歩き回って千住の河岸にたどり着きました。そして、心変わりをした男への怒りと悲しみを抱いて、荒川へ自らの身を沈めてしまいました。それからお牧さんは大蛇に姿を変えて…。

それからというもの、川越夜舟が牧の野のあたりを通ると、その葦の茂みから大蛇が出てきて、船の横腹にぶつかって転覆させるということが度々続きました。この話を聞いた千住宿の人達は、思いがかなわなかったお牧さんのたりにちがいないと言いました。船頭達は、お牧さんをうらぎった仲間を恥じて、お牧さんの故郷にお地蔵様をたてて、その冥福を祈ったということです。その後は、大蛇が出ることもなく、川越夜舟は平穏な運航を続けることができたと言われています。



「牧の野」の大蛇

## すみだ川の妖怪絵巻 その3

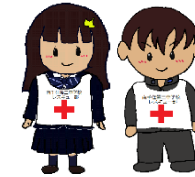
### 『牧の野の大蛇』(横の屋のおこ)



題字:校長 齊藤 進



学校だより  
令和元年6月号  
第96号  
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

## 日本が誇るおもてなし文化 (修学旅行でのひとコマ)

校長 齊藤 進

6月8日から10日まで3年生が修学旅行で京都・奈良へ行きました。天候に恵まれ、生徒全員が体調を崩すこともなく、全行程を終えることができました。古都の観光名所見学だけではなく、石舞台を起点として飛鳥をサイクリングしたり、水しぶきを浴びながら激流の保津川を下ったり、多くの素晴らしい思い出が残る修学旅行となりました。



おもてなし

こうした修学旅行が実現できた背景には**実行委員長**の〇〇〇〇くんを中心とした実行委員や班長の活躍がありました。修学旅行を成功させようとする彼らの意識の高さと真摯な姿勢には心打たれるものがありました。

二泊三日の修学旅行で感心したことがありました。それは一日目に宿泊した多武峯(とうのみね)観光ホテルの**おもてなしの素晴らしさ**です。バスが到着する際は従業員総出の出迎えを受けました。生徒が館内に入り各部屋に移動したあと、玄関で一人一人の生徒・教職員の靴を従業員の方が丁寧に磨く光景が目に入りました。思わずお礼に伺いましたが、こうしたことは団体旅行ではなかなかありません。食事や体験学習で生徒が移動する際は従業員の方が案内してくださったり生徒が使用したスリッパをそろえていただいたり常に心遣いをしてくださいました。従業員の方々の**真摯で心温まる姿勢**に感動しました。こうしたおもてなしが生徒の心を動かし、お礼の置手紙を部屋に残した生徒が複数いました。

旅館の皆さんへ  
感謝を綴った  
生徒の置き手紙

多武峯観光ホテルは長年、学習院女子高等科が利用しています。昨年は愛子さまが、その前は佳子さまがご宿泊されました。その際は特別な対応はなく部屋や食事の内容は南千住二中と同じだということです。皇室の方々が利用されるのもこうしたおもてなしが評価されているのかも知れません。

2020をひかえクールジャパンという言葉が広がりを見せ日本の文化が高く評価されています。その一つにお客様を大切に**「おもてなし」**の心があります。そこには、相手の気持ちを理解し尊重する姿勢があります。商品をドアまで持参し、ドアを開けてくださる店があります。私は、ある商品を買うときは必ずその店を利用することに決めています。外国人はこうした心遣いは海外では見ることができない、**日本独特のすばらしい文化**だといえます。

多武峯観光ホテルで生徒は観光だけではなく「おもてなし」を日本が世界に誇る文化として実感することができたと思います。修学旅行で触れたこうした文化を日々の学校生活で生かし、他者への思いやりや尊重する気持ちをさらに育んでほしいと思います。



# 第31回 運動会

京都

保津川下り

5月25日(土)、早くも夏日を記録した晴天の一日、南千住第二中学校第31回運動会が行われました。今年も総合優勝を目指す“赤、白、黄、緑”の色別対抗戦と、学年優勝を目指すクラス対抗戦で、さまざまな競技が繰り広げられました。

スタートは、色別のチームに分かれ、全校生徒が行う入場行進から。吹奏楽部の演奏に合わせて足並みそろえた行進は、今では南千住第二中の運動会の名物となっています。校旗を高くかざして先頭に立つのは生徒会長の〇〇〇〇さん(3-4)。つづいて生徒会役員が続き、赤組、白組、黄組、緑組の順で隊形を組み入場しました。

開会式では、各色の応援旗を持って3年生の実行委員が**実行委員会委員長 〇〇〇〇くん(3-4)**の周りを囲み、〇〇くんの力強く堂々とした選手宣誓の音が会場に響きました。最初の演技はラジオ体操。〇〇くんが前に立ち、模範演技を行う中、全校生徒の息が合った、素晴らしい演技になりました。

午前の部は、1年男子の短距離走からはじまり、男女別の長距離走、2・3年生(白組のみ1年生も参加)による色別対抗棒引き、1年女子の短距離走、全学年による色別対抗綱引き、3年全員リレー、1・2年の学年種目と続きました。1年生の学年種目は「**四輪ピック**」。各クラス一人ずつが輪をくぐり早さを競います。勝ったのは、他クラスの隙をついて自分の陣地に四輪を運び一気にくぐっていった1組(緑)でした。2年生の学年種目は「**おさるのかごや**」。おさる役がかごに見立てた棒にぶら下がり、2人が担いで運ぶ競技です。かわいいおさる役が必死に縄にしがみつく様子と抜きつ抜かれつの大接戦に会場は盛り上がりました。接戦を制し、1位でゴールしたのは3組(赤)でした。午前の部の最後は各学年の学級対抗リレーでした。鮮やかなバトンパスのたびに、応援席から声を限りの声援がとび、会場は大盛り上がりで、各色僅差の接戦で午前の競技を終えました。



選手宣誓

入場行進



3年生1組6応援団旗

学年種目



1年生「四輪ピック」



2年生「おさるのかごや」



3年生「大むかで」

昼食後、各色の応援団が紹介され、競技が再開されました。午後の部は、1・2年全員リレーからはじまり、3年生の学年種目「**大むかで**」と続きました。中学校生活最後のこの団体競技に向けて、3年生は2週間毎日練習を続けてきました。縄の結び方、かけ声の仕方、走り方を何度もチームで話し合い工夫を凝らしてのぞんだ本番では、これまでにないスピードとチームワークが輝く爽快なレースとなりました。勝利を決めたのは、はじめてノームスでゴールした4組(緑)。皆で心をひとつにして最後まで諦めることなく駆け抜けたゴールは、笑顔と涙にあふれていました。そして競技の最後を飾るのは、各色の精鋭を集めて行われた色別対抗リレーです。各色の応援団席からは大声援が送られ、選手たちの表情は気迫に溢れていました。1年から2年、そして3年とバトンをつなぎ、1番にゴールを切ったのは、赤組でした。最後まで全力でゴールを駆け抜けた選手たちに会場からは惜しみない拍手が送られました。



実行委員は係活動も頑張りました

全競技を終えて、閉会式で実行委員〇〇〇〇さん(3-4)から結果発表が行われました。色別対抗の部は、1・3年のチームで大奮闘した**白組が優勝**、学年対抗の部では、**3年生1組、2年生3組、1年生1組がそれぞれ優勝**をおさめました。

運動会に際しては、保護者、地域の皆さまのご理解・協力ありがとうございました。



## フラワーアレンジメント部

### 天王祭に作品を奉納！

荒川区で最大規模と言われる、素盞雄神社の天王祭が今年も6月8日、9日の2日間にわたり行われました。コツ通りや日光街道を練り歩く神輿は担ぎ棒が2本の二天棒と呼ばれるもので、左右に大きく揺れる激しい神輿振りは迫力にあふれ、威勢の良いかけ声とともに、南千住の街は熱気と活気に包まれました。南千住第二中の生徒の多くは地元の氏子で、神輿の担ぎ手や天王太鼓の打ち手として祭りに参加。毎年祭りの日を楽しみにしています。2日目はあいにくの雨でしたが、両日ともに、多くの人で神輿の宮出しから夜の宮入りまで賑わいました。今年天王祭には**フラワーアレンジメント部から部員16名のアレンジメント作品を奉納**。天王祭期間中、素盞雄神社の境内で展示されました。梅雨空をひときわ明るく彩る華やかなアレンジメント作品に足を止め、見入る人も多く見かけられました。



境内に展示されたアレンジメント作品



## 3年生 修学旅行

6月8日(土)から10日(月)までの3日間、3年生は2泊3日の修学旅行に行ってきました。梅雨に入り、空模様が心配されましたが、およそ1ヶ月をかけて準備を重ね、この日を心待ちにしていた3年生の願いが空に届いたかのように、電車やバスの中では雨が降り、奈良や京都での班行動では晴れ間がのぞく好天の修学旅行となりました。東京駅の出発式は**実行委員の〇〇〇〇くん(3組)と〇〇〇〇くん(3組)**の司会で行われました。**実行委員長の〇〇〇〇くん(2組)**の「**自主自立の集大成として、持てる全ての力を注ぎ、全員が一生涯の思い出となる修学旅行にしましょう!**」の出発の言葉に、自分たちの力だけでこれまでの友情をさらに深め、最高に充実した3日間にするのを心に誓い、出発しました。

新大阪駅に到着すると、バスで奈良の石舞台に移動し、班ごとに**石舞台古墳**を見学。その後、班ごとに決めたコースに沿って、飛鳥路をレンタサイクルに乗って巡りました。高松塚古墳や飛鳥歴史公園館をはじめ、聖徳太子誕生の地や二面石・猿石・亀石などの遺跡、橘寺や飛鳥寺などの古寺をおよそ3時間かけて見て回り、およそ1300年前に政治や文化の中心であった飛鳥の地に今もなお残る風景に触れ、歴史に触れました。この日の宿泊は、「**多武峰観光ホテル**」。たいへん格式あるホテルで、細やかなおもてなしを受け、生徒全員日本に息づくおもてなしの素晴らしさに感激しました。夕食は部屋ごとに鴨、猪、鶏肉を使った名物の**義経鍋**を作ってくださいました。1日目の最後は「**漆器の加飾体験**」へ。初夏らしい花火や金魚、古都の雰囲気漂う寺社や手まりなど、思い思いの図柄に真剣な眼差しで一色ずつ筆を入れて、思い出に残る素敵な作品を完成させました。翌朝、前日の飛鳥路散策で使った靴が従業員の皆さんの手ですべてきれいに磨き上げられており、爽やかな気持ちで奈良公園南大門へ出発することができました。班ごとに決めたコースで京都へ向かい、三十三間堂、北野天満宮、伏見稲荷大社、二条城、下鴨神社などを見て回りました。2日目の宿泊は、京都の奥座敷亀岡にある「**烟河**」。万病と厄除けの効用があると言われ、伝説のある湯の花温泉で疲れを癒やし早めに就寝しました。

3日目はバスで移動して、保津川へ。山間の渓谷およそ16kmを嵐山まで船で下りました。両岸には巨岩・奇岩が点在し起伏に富んだ流れに、自然とスリルを満喫しました。その後、嵐山市街を班行動して周り、京都駅へ向かいました。昼食後、**実行委員の〇〇〇〇くん(1組)と〇〇〇〇くん(1組)**の司会で解散式を行いました。**実行委員長の〇〇〇〇くん**からお世話になった添乗員さんやホテルの皆さんへ感謝の言葉が送られました。最高の思い出ができ、3年間の集大成として、さらにひとまわり成長した3日間でした。

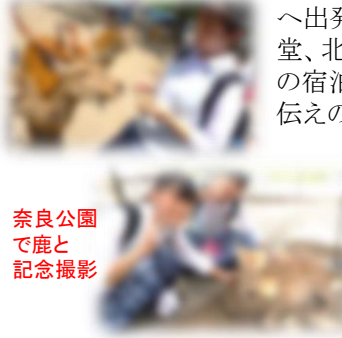
奈良公園で鹿と記念撮影



義経鍋を堪能!



漆器の加飾体験



## 奈良飛鳥路 サイクリング



仲間とともに心をひとつに



チームの優勝を目指し競う!



## JRC 地域清掃



JRC委員長の〇〇さん

運動会が終わった翌週の5月28日(火)の5、6校時に、日頃お世話になっている南千住周辺の地域清掃を行いました。今回の地域清掃では、東は常磐線の線路沿いまで、西は日光街道を越えたところまでの広い範囲を3学年で分担して行いました。出発式では、注意事項などの

説明につづいて、**JRC委員長の〇〇〇〇さん(3-2)**が「**運動会でもお世話になった地域の皆さんに感謝の気持ちを持って、地域を隅々まできれいにしましょう**」と挨拶しました。その後、全校生徒と教職員総勢およそ400名が、鉄ばさみとゴミを入れるレジ袋を手に南千住の街に一斉に繰り出しました。清掃活動はおよそ1時間。道路脇の植え込みの中や側溝のふたの間まで目を配り、隅々まで一生懸命に地域の美化活動に努めました。

全校生徒が校庭に戻ってくると、班ごとに分別して持ち帰ったゴミで、大きなポリバケツはあっという間にあふれるほどになりました。その後JRC委員が分別されたゴミを確認しながらゴミ袋にまとめ、さらに、作業に使った鉄ばさみや資源となる缶やペットボトルなどはラベルをはがし、きれいに洗って回収してもらいました。計画や準備から出発式の司会、最後の片付けまで行ったJRC委員の皆さん、ご苦労さまでした。



はじめての地域清掃に張り切る1年生



集めたゴミは分別し、資源ゴミはリサイクルへ